

自然哺育での 2ヶ月離乳における黒毛和種の育成期間の短縮

家畜改良増殖目標（平成17年3月30日現在）において示されている黒毛和種去勢牛の能力に関する目標数値（全国平均）は、肥育期間を現状の30ヶ月から24～26ヶ月に短縮することを目指しています。この目標を達成するには、肥育開始月齢を9.5ヶ月から7～8ヶ月に早め、個体の能力に応じた効率的な肥育を実施する必要があります。そこで、香川県では早期母子分離による離乳方式が少なく自然哺育による離乳方式が多いことから、今回、自然哺育での3ヶ月齢離乳を2ヶ月離乳に短縮する育成方式について検討しました。

☆ 技術の概要

1. 2ヶ月で離乳する2ヶ月区、3ヶ月で離乳する3ヶ月区を設定し、黒毛和種の去勢子牛6頭および雌子牛6頭を各区に割り当て、水は自由飲水とし、粗飼料は30日以降に不断給餌、人工乳は上限2kgの不断給餌としました。
2. 3ヶ月齢までの人工乳の摂取量は、2ヶ月区の去勢が95.9kg、雌が95.3kg、3ヶ月区の去勢が75.4kg、雌が75.8kgでした。
3. 4週齢時における β -ヒドロキシ酪酸の値は、2ヶ月区の去勢が $406\mu\text{mol/L}$ 、雌が $418\mu\text{mol/L}$ 、3ヶ月区の去勢が $335\mu\text{mol/L}$ 、雌が $274\mu\text{mol/L}$ で、2ヶ月区が成牛並みの高い値を示し、第一胃がより発達していると推察されました。
4. 7ヶ月齢における体高、DG、体重、胸囲、腹囲および腹胸差の各値は、2ヶ月区が3ヶ月区より大きく、家畜改良増殖目標の体重に達しました。2ヶ月離乳は、発育が良く、斉一性に優れ、第一胃の発達が良好であることが推察されました。



写真1 左：3ヶ月離乳（雌） 右：2ヶ月離乳（雌）（8ヶ月齢頃）

☆ 活用面での留意点

人工乳から濃厚飼料の切替は3週間かけて徐々に行い、給与量を去勢DG0.9kg、雌DG0.8kgに設定し、粗飼料は不断給餌として下さい。また、母牛への濃厚飼料の給与量は、離乳3週間前から徐々に減らして泌乳量を緩やかに減少させ、発育停滞防止に努めて下さい。なお、詳細については、香川県畜産試験場 酪農・肉牛担当 上村圭一(TEL: 087-898-1511)にお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)